

特定非営利活動法人 京都海外協力協会

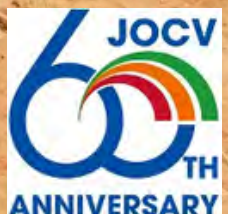
# KOCA NEWS

Vol.14

11  
2025



A repair of a handpump well in Rwagamana of Rwanda,  
photographed by Katsuhito Nishimura (2021-3/ Rwanda/ Community Development)



## TABLE OF CONTENTS

### TOPIC

Table of Contents	02
2025年度1次隊表敬訪問	03
2025年度1次隊の皆さんいってらっしゃい！	04-05
国際交流会を開催 / 京極ダイニングでKOCA壮行会を開催	06
万博「マラウイ共和国ナショナルデー」を祝う	07
JICA海外協力隊員 現地レポート「セトゥーニャらいふ 第6話」	08
JICA海外協力隊員 現地レポート「第6話 ドミニカマンゴー祭り」	09
JICA海外協力隊員 現地レポート「大切なコミュニケーションの場の「チャイ・タイム」 第6話」	10
JICA海外協力隊員 現地レポート「マダガスカルの人々と共に Vol.6」	11
JICA海外協力隊員 現地レポート「マイペンライフ Vol.3」	12
JICA海外協力隊員 現地レポート「何もできない日の価値 第1話」	13
JICA海外協力隊員 現地レポート「ソフィーの活動通信inベナン vol.2」	14
国際交流イベント「SPORTS DAY」報告	15
JOCA令和7年度評議員および第14回定時社員総会 / Event Schedule	16

### JICA海外協力隊60周年



1965年に、ラオス・カンボジア・マレーシア・フィリピン・ケニアの5か国に派遣されて以来、JICA海外協力隊は今年で60周年を迎えます。

これまで農林水産、保健・医療、社会福祉、商業・観光等含む9つの分野、190以上の職種で隊員が活動し、2024年12月には累計派遣隊員数は約57,000人となりました。

60周年記念事業のテーマは、「世界と日本を変える力」です。  
JICA海外協力隊60周年を記念して、KOCAでは、京都にいながら世界と触れる機会を作り、JICA海外協力隊の経験を多くの府民に伝える活動をして、ロゴマークが意味する「日本と開発途上国をむすぶ架け橋」となって府内での国際交流・国際協力に貢献します。



# 京都府と世界の架け橋に

## ～2025年度1次隊 表敬訪問～



▲大山崎町表敬訪問 7月7日



▲京都府庁表敬訪問 7月8日



▲京都府JICAボランティア応援団様による茶道体験



▲福知山市表敬訪問 7月14日



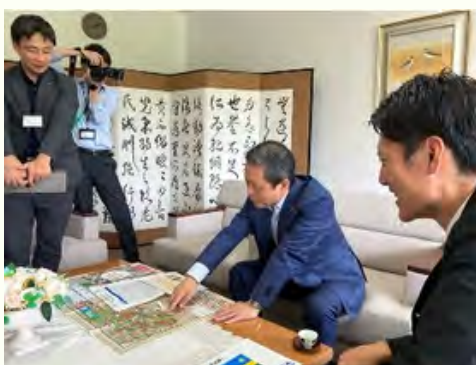
▲京都市表敬訪問 7月16日



▲京都市役所屋上にて



▲木津川市表敬訪問 7月17日



▲京田辺市表敬訪問 7月18日



▲城陽市帰国後表敬訪問 7月24日

JICA海外協力隊2025年度1次隊6名が派遣前表敬を行いました。また、現地での活動を終えて2025年3月以降に帰国した隊員のうち3名が、京都府と京都市、城陽市に帰国後表敬を行いました。

京都府庁では、京都府JICAボランティア応援団様による茶道体験と京都セットのお土産をいただきました。京都市役所では、表敬後、職員の方々に屋上を案内していただきました。

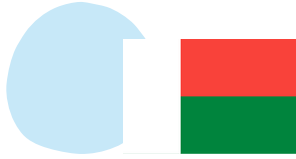
6名の新隊員は、7月29日と8月4日に、任国へと飛び立ちました。

京都府から1,300人の協力隊隊員が派遣され、うち650人が京都市から派遣され、現在約40人が任国で活動しています。関西万博が開催された2025年は、ジンバブエ隊員が3ヶ月間、ジンバブエの魅力を伝えるためにジンバブエ国の一員として万博へ派遣されたこともあったそうです。

2025年度1次隊のみなさんは、どのような活動を展開するのでしょうか。安全と健康に留意しつつ、世界の架け橋となって活躍を祈ります。

# 2025年度 1次隊

## みなさん、 いってらっしゃい！



派遣国：マダガスカル  
職種：体育

佐々木 舞華

応募したきっかけ

高校生の時にOVの方の話を聞いて、私もいつか行ってみたいと思いました。

訓練所での思い出

面白い人とたくさん出会えたこと

趣味と特技

登山とバスケットボール

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

とっても楽しみです！健康第一でがんばります！

金本 隼太

応募したきっかけ

昔から海外で生活したい、働きたいという思いがあり、青年海外協力隊も1つの選択肢でした。しかし、あと1歩決断する勇気がもてませんでした。そんな時職場の同僚から、過去に協力隊に応募したが家庭の事情で行けなくなった、という話を聞きました。その話を聞いて、行くチャンスがあるなら行こうと決心しました。

訓練所での思い出

主催したバク転教室で、たくさんの人がバク転に挑戦し喜んでくれたこと。

持参したコーヒー器具でハンドドリップコーヒーをたくさんの人に振る舞い、喜んでくれたこと。

趣味と特技

器械体操、テニス、ピアノ、コーヒー

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

これまで培ってきた指導力が、海外でどれほど活かせるのか楽しみです。パプアニューギニアの学力アップに貢献できるようがんばります。また、自分の挑戦が多くの人の刺激になればいいと思います。



派遣国：パプアニューギニア  
職種：小学校教育



派遣国：ルワンダ  
職種：青少年活動

福井 貴士

応募したきっかけ

20年以上市役所に勤務していますが、年々増加する在留外国人に対し、今後どのようなサービスや情報が求められるのかを見出すため、一度自分自身がマイノリティになってその答えを探りたいと考え、応募しました。

訓練所での思い出

70日間すべてが本当に素敵な時間でした！

様々な年齢、職業、経験をされた方々と一緒に生活を共にし、あらためて自分自身の見識の無さに気づけたことで、今後も研鑽を積み重ねなければならないと意を新たにしました。また、やさしくて温かいメンバーにも恵まれ、苦しい語学学習もなんとか乗り越えることができました。

趣味と特技

おいしいものを食べる、温泉、テニス、スノボ

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

海外へ行った経験がほとんどなく、しかもアフリカで長期間生活をするということで、健康面や生活面、言語など不安だらけですが、人生一度きり、精一杯ここでしかできない経験をしたいと思います！

# 2025年度 1次隊

辰井 美風



派遣国：グアテマラ  
職種：小学校教育

## 応募したきっかけ

- ・教員をしていて、子どもたちに挑戦してほしいと願っていましたが、まずは自分が挑戦する姿を見せよう！と思ったから。
- ・自分の経験を子どもたちに伝えることで、彼らの将来への視野を広げたいと思ったから。

## 訓練所での思い出

- ・毎朝(時々寝坊)6時からランニングをしていたこと
- ・訓練生の中にバク転を教えてくれる方がいて、練習させてもらったこと
- ・アルティメットに興味を持ってもらえて、多くの方と関わったこと

違う職種や年代の方々と出会うことができ、みなさんのお話を聞くことがすごく楽しかったです！！

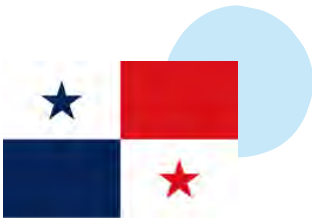
## 趣味と特技

運動(アルティメット)

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

周りの方々のおかげで今の自分があることへの感謝を忘れず、自分ができることを精一杯やり切りたいです！そして健康安全に気をつけて、無事に日本へ、家族のもとへ帰ります！

中田 香奈



派遣国：パナマ  
職種：小学校教育

## 応募したきっかけ

中学の時に海外協力隊を知りいつか行ってみたいとずっと思っていました。教員になり、今なら何か出来るかも！と思って応募しました。

## 訓練所での思い出

友達とコンビニまでアイスを買いに歩いたり、体育館でバトミントンや運動んしたこと

## 趣味と特技

料理

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

まずは、健康、安全第一で、向こうの文化や人々との関わりを楽しみたいです！

川上 千晶



派遣国：カンボジア  
職種：学校保健

## 応募したきっかけ

友達とのインドネシア旅行で、地元の子供達のポジティブな表情をみて、途上国の教育や文化に興味を持ち、応募しました。

## 訓練所での思い出

語学がとても大変でしたが、友達もでき、聞いたこともない国も知って、地球ってどこでもいけるんだと気づくことができた訓練生活でした。

## 趣味と特技

登山

派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ！

不安もありますが、健康第一に楽しみたいと思います！



# INTERNATIONAL GATHERING

## TOPIC

### 国際交流会を開催

2023年4月に試しに始めた国際交流会は、回数を重ねてだんだんと定着してきました。

6月29日（日）は真夏のように暑い日でしたが、ゲストハウス京都インに、イタリア、キルギス、スリランカ、台湾、中国、フランス、マラウイ、日本から17名集まりました。6ヶ月の赤ちゃんから、保育園児、大学生、社会人まで揃って異世代交流にもなりました。

採れたてのトマト、きゅうり、なす、バジルなどで作るピザとサラダの美味しいことと言ったら、ほっぺたが落ちそうでした！ピザを作って食べるだけでなく、参加者の誕生日を祝い、カイロプラクティックの専門家に凝りをほぐしてもらい、子ども同士の微笑ましい交流に大人たちは目を細める場面もあり、なんとも幸せで楽しい時間となりました。



## TOPIC

### 京極ダイニングでKOCA壮行会を開催



7月8日（火）、京都府表敬訪問を終えたあと、府庁から10分ほど歩いたところにある「京極ダイニング」で壮行会を開きました。パプアニューギニアに派遣される隊員のために、1998年にパプアニューギニアで活動したOVも応援に駆けつけてくれました。

また、一時帰国中の隊員が「協力隊の雰囲気に触れたくて」と参加してくれました。1次隊は、現職教員の参加が多いことが特徴で「10年の教員経験を活かして、現地の子どもの学力向上に貢献できたらいいな。協力隊経験を京都市の子どもたちに還元したい」など抱負を聞きました。「語学習得のコツは？」と情報をシェアしたり、帰国後の進路、婚活、人生設計まで話題が広がりました。





# EXPO



2025年6月18日（水）

2025年大阪・関西万博で開催された「マラウイ共和国ナショナルデー」の式典に、昨年のマラウイ共和国をテーマにしたイベント運営スタッフが出席しました。マラウイ共和国大使館より式典の招待をいただき、感謝の気持ちとともにマラウイ共和国への親しみが一層増しました。

式典では、マラウイ共和国は農業、観光、鉱業、製造業の4つの柱で国を発展させていくことが力強く語られました。また、これまでに1,900人以上のJICA海外協力隊がマラウイ共和国で活動し、両国での草の根の信頼関係の構築に寄与していることも伝えられました。



式典の締めくくりに、1987年に設立されたマラウイ共和国の舞踊団が様々な民族舞踊を披露しました。最後は「みんなで踊りましょう」との呼びかけがあり、私たちも輪になって踊りました。



午後

## マラウイ共和国特命全権大使にご挨拶

マラウイ共和国のブースにて、クワチャ・チシザ駐日マラウイ共和国特命全権大使にご挨拶しました。2月の東京に次いで、大阪でお会いできました。マラウイ共和国OBOGとともに、京都でマラウイ共和国と日本の草の根交流を進められるよう、企画していければと思います。







# セトウーニャらいふ 第6話

## <自己紹介>

2023年度4次隊／コミュニティ開発隊員として、南部アフリカ・ボツワナで活動している井上日南子です。  
現地語のツワナ語で「セトウーニャ」（意味は「花」）という名前をもらいました。



## <マラソン大会に参加！>

ボツワナ滞在中、一度は訪れたいと思っていた場所がありました。それが、ボツワナとザンビアの国境に架かる全長923mの橋、「カズングラ橋」です。この橋は、アフリカ開発銀行と日本のODA（政府開発援助）による協調融資で建設されました。

2017年、バックパッカーとしてアフリカを縦断していた私は、この川を渡し船で渡ったことがあります。当時は、数台のトラックしか載せられない渡し船しかなく、車両の通関には2～5日もかかっていたようです。



約8年ぶりに再び訪れたこの国境には、立派な橋が架かっていました。さらに、JICAの技術協力によりOSBP（ワンストップ・ボーダーポイント）が導入され、現在では通関手続きが格段に効率化されています。

今年2月には、このカズングラ橋を横断できるマラソン大会に参加しました！日本が発展に協力した橋の上を走るマラソンは、とてもいい思い出になりました。



## <国内観光地へ販路拡大>

カズングラ橋からほど近い場所に、チョベ国立公園があります。ここではさまざまな野生動物を観察することができ、特にゾウの数が多いことで知られています。チョベ川でのクルーズやサファリも楽しめます。

こうした野生動物を目当てに、多くの外国人観光客が、国立公園の拠点であるカサネという町を訪れます。観光客をターゲットにしたプロジェクトの一環として、その街のお土産屋さんに、任地の村で作られた商品を取り扱ってもらえるよう働きかけました。



村のテラーさんが伝統布で作ったシュシュの売れ行きは好調です。今後も、商品の展開や販路の拡大を目指して活動していきます！





# ドミニカ共和国便り

ドミニカ共和国では5月～7月にかけマンゴーの最盛期を迎えます。  
今回は私の一番好きな果物、マンゴーの今について紹介します。



## ドミニカマンゴー祭り

ドミニカ共和国南西部、屈指のマンゴー生産地であるバニで毎年開催されるマンゴー祭りは、国内各地からお気に入りのマンゴーを求め大勢の人で賑います。目玉は20種類以上のマンゴーが並ぶ試食コーナー。お皿に次々と盛られるマンゴーたちを前に、とにかく皿を空けることへの使命感のみで味の違いを楽しむどころではありません。

マンゴーは完熟すると木から落ちるので、大人も子どももマンゴーを拾って道端で食べています。収穫後2～3日で追熟が進むため、消費もスピード勝負です。私の任地にもたくさんの在来種のマンゴーが植えられています。小ぶりで繊維が多いため市場価値がつかず、殆どが家庭内で消費されます。それでも消費が追い付かず、地面で腐ってしまうマンゴーを箒で処分するという、まさに落ち葉状態。以前はジュースなどの加工用にマンゴーを回収していた非公式のバイヤーもいましたが、姿を消してしまったそうです。

マンゴー祭りでは、ジャムや蜂蜜といったマンゴーを活用した加工品の試食・販売があり、これらの商品は地元女性グループや協同組合によって手作りされ、所得向上や女性の自立支援につながっています。一方で、日本の大手スーパーにマンゴーを卸した経験もあるドライマンゴーの加工施設を運営する地元企業の話によると、輸出に必要なJAS認証（日本農林規格）の取得や、リーファーコンテナ（冷蔵機能を備えた輸送用コンテナ）の手配など、中小企業には金銭面でも物流面でもかなりハードルが高いようです。

ドミニカ共和国では年間96,000トンのマンゴーが生産されており、ここ5年で生産量が倍増しています。Mingoro（ミンゴロ）Banilejo（バニレホ）といった国内原産の品種は、甘味が強く濃厚な味わいで国内でも高い人気を誇ります。また、アメリカ原産の品種は、大玉でダメージに強く輸送性に優れており、大部分は欧米地域へと輸出されます。

こうした一部のブランド品種が集中的に生産・輸出される一方、過剰生産による価格の下落と市場のミスマッチにより、廃棄されるマンゴーが問題視されています。



日本では高級で貴重なフルーツのマンゴーですが、この国での現実は厳しいようです。生産量が増え続ける一方で、販路や保存手段が追いつかず、誰にも拾われず廃棄されてしまう現状に胸が痛みつつ、甘くて濃厚なドミニカ共和国のマンゴーを今日も1つでも多く食べようと思います。



### <プロフィール>

重村 瑞穂（しげむら みずほ）1991年、京都市左京区生まれ。学生時代まで京都で過ごし、その後、電機メーカーに7年間勤務。2024年5月より、JICA海外協力隊としてドミニカ共和国で小規模農家の収入向上と地域活性化に向けて活動中。好きな場所は鴨川と哲学の道。





## 大切なコミュニケーションの場の 「チャイ・タイム」

Vol.6

みなさま🌸 こんにちは！2023年度4次隊の今中美栄です。キルギスでの二度目の夏を過ごしています。湿度の低い高原地帯に照り付ける陽光はとても眩しく40℃も軽く超えますが、日陰は涼しく、山脈からの風も心地よいものです。今回は、日常生活に溶け込んでいる「チャイ（ティー）・タイム」の様子をご紹介します🌸

### 1日2回のチャイ・タイム

キルギスの食事は、基本5回です。午前10:30と午後2:30頃に軽食とお茶を頂くチャイ・タイムがあります。持ち寄りの軽食やお菓子とカラ・チャイ（紅茶）を頂きます。ナン（パン）に手作りジャム、サラダやマントウ（丸い餃子）、カステラや果物などを頂きながら、30分から1時間ほど雑談に花が咲きます。もちろん仕事の手は止めて楽しめます。午後のチャイ・タイムの後は、早々に帰宅の準備…🌊キルギスは、仕事もゆる〜く進みます💖！



巡回先でのおもてなし



セミナー後に校長先生と



同僚のお誕生日

### おもてなしの心

また、キルギスのティータイムは、お客様へのおもてなしの場として、重要な役割を持っています。食事の前後には、ボルソック（揚げパン）や果物、ナッツ類、干し果物、チョコレート、手づくりジャム、とチャイ（紅茶が主）が、大きな客人用の机の上に溢れます。また、研修や会議の場にも、ティータイムは欠かせません。セミナーの始まる前、休憩時間、終わってから、と、様々なシチュエーションで、用意されます。



長寿のお祝い



弔問客への心配り



新年のお祝い



研修会場

### 甘〜い甘〜いお付き合い💖

おもてなしのメニューは、甘いお菓子やパンが並びます。手作りのジャムは女性の自慢の一品です。新鮮な牛乳から作られたサワークリーム、キルギスの特産品の蜂蜜、これらを伝統的なボルソックにつけて、頂きます。さらに、ロシア産のあまいショコラ（チョコレート）にクッキー、積み上げられた新鮮なフルーツ。何杯も頂くチャイには、角砂糖をたっぷり入れて頂くのがキルギス流！？…とにかく甘いものが喜ばれるようです。☆栄養士としてはちょっと気になるキルギスのチャイ・タイム💖🍬 そこは、心の栄養ということで…🌸🌸

#### Profile

神戸市出身、京都市在住。管理栄養士として保健所、病院で勤務。その後、京都市、島根県の大学にて、管理栄養士養成に携わる。

栄養士としての経験を海外で活かせるか？若き頃の夢を叶えるために、キルギスでの健康づくりに向けて活動中！



# マダガスカルの人々と共に

Vol.6

JICA海外協力隊現地レポート



## Culture!



### マダガスカルのお土産

私はマダガスカル中西部の町、チルヌマンディディで青少年活動隊員として活動しています。赴任して以来、現地の人々からは、多くのことを学ばせてもらうばかりです。例えば、この国では長距離移動の道沿いに季節の果物が並び、行き交う人々がそれを買って求める光景をよく目にします。マダガスカル語で果物は「voankazo(ブアंकاز)」、道は「lalana(ララナ)」と言います。この二つの言葉が合わさった「voandalana(ブアンドラナ)」は、日本語の「お土産」にあたる言葉です。果物を道で買って帰ることが、この国でのお土産の形なのです。

すごくアフリカらしいなと感じると同時に、日本人も旅先でお土産を買うよなと思うと、日本から遠く離れたマダガスカルの人々にも、日本の「友達や家族を思う心」に通じるものがあるのだと感じ、少し嬉しくなりました。



最近は料理の際にガスを使うのをやめ、かまどで調理するようになりました。すると、今まで見ていなかった現地の人々の生活の工夫がより身近に感じられ、彼らとの距離もこれまで以上に近くなったように思います。

## 自己紹介

### 岸本光太郎

出身：京都市  
隊次：2023年度4次隊  
職種：青少年活動  
派遣国：マダガスカル

「子どもたちと未来を創る」をモットーに、スポーツや文化活動を通じて地域の若者と交流し、共に成長する毎日です。



まだまだ文化や言葉の違いに戸惑うこともありますが、「ともに学び、ともに笑う」という姿勢を大切に、日々新たな発見を楽しんでいます。これからも現地の人々と心を通わせ、少しでも地域に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思っています。



## プロフィール

- ・ 名前：鋤田早紀（くわたさき）
- ・ 隊次：2023年度4次隊
- ・ 派遣国：タイ
- ・ 職種：日本語教育
- ・ 秋の紅葉で有名な東福寺の近くで生まれ育ちました。四季が美しい日本から一転、昨年5月から常夏の国・タイでの生活が始まり、冒険の毎日を過ごしています。タイでは中高一貫校で日本語を教えています。



## ワイクルー（教師へ感謝する日）



季節は暑季から雨季へと移り、現在活動している配属先に来て、もう1年が経ちました。今回は、最近学校で行われた式典「ワイクルー（教師へ感謝する日）」について紹介します。「ワイ」はタイの挨拶である合掌を意味し、「クルー」は教師を意味します。ワイクルー当日、中学1年生から高校3年生までの全校生徒約5,300名が学校内のドームに集まりました。特別なお経を読んで、歌を歌い、日頃の教師への感謝の気持ちを表します。その後、各クラスの生徒が花や果物など作った「パーンワイクルー」というオブジェを教師に渡すのですが、中にはドリアンや担任の先生の写真を飾ったり、先生が好きな化粧品を盛り付けたりと、クラスの個性がよく表れていて、見ただけで幸せな気持ちになりました。

振り返ってみれば、タイでは教師という仕事がとても大切に、そして尊敬されている職業だと感じる人が多いです。教師はタイ語で「クルー」ですが、一般的に「クンクルー」と呼ばれます。「クン」は日本語の「さん」や「様」などの敬称を意味し、数ある職業の中でクンという敬称がつくのは教師と医者だけだそうです。その理由は「人の人生に関わる仕事だから」と教えてもらいました。

私は日本での教師経験はなく、タイで初めて高校教師になったので、日本語指導以前に思春期の生徒との関わり方に思い悩むこともあります。しかし、生徒から「ありがとう！」とジャスミンの花輪をもらった時、「こんな私でも教師でいいんだ！」と思うことができました。あと一年、生徒にとってこの学校が少しでも楽しく、新しい自分の発見や成功体験ができる場所になるよう、日本語教育を通して生徒の成長を見守りたいと思ったのでした。







## 何もない日 もきほの値



### 自己紹介

吉井 大河

2023年度3次隊／派遣国：ベナン／職種：コミュニティ開発

オーストラリアでの農業ボランティアをきっかけに、世界の多様な価値観に惹かれました。現在はベナンで観光農業活動に取り組み、日々の失敗から学びながら活動しています。そんな現地での気づきを少しずつ言葉にしていきます。

### 「自分がここにいる意味は何だろう」

配属されてしばらく経ったある日、フランス語と現地語が飛び交う会議の中で、ふと思いました。

任地に来て1カ月が経過し、現地語の授業を終えたばかりを待っていたのは、農業のプロ達が“即戦力”を求めている職場でした。言葉もほとんど理解できず、農業の知識も乏しい私は、「勉強しろ」と言われるばかり。しかし、ある時思ったのです。

「自分は労働力として来たのか」それよりも、「異なる視点を持つ人間が現地に入り、共に暮らし、関わり、刺激し合うことにこそ意味があるのではないか」

そう考え、「好きにやらせてもらえませんか」とお願いし、一度町を歩いてみることにしました。

改めて町を見ると、とても美しい景色だと感じたのです。湖からまっすぐ伸びる坂道、豊かな緑。「この町の魅力を活かして観光農業をしたい」と思ったばかりは、拙い現地語で、出会う人にそう伝えて回りました。



すると間もなく、一人の農家さんが来てくれました。

「お前の話を聞いた。俺と一緒にやろう」

彼は、以前よくに現地語の授業をしてくれた先生でした。偶然にも、彼も観光に関心を持っていたのです。望まれた役割を全うできなかったあの日々にも、意味があったのだと実感した瞬間でした。

ぼくらはすぐに観光農業を始め、次第に国内外から多くの人を訪れるようになっていきました。というところで、今回は以上です。

次回は、「選り直して、踏み鳴らす」というタイトルで、書いてみようと思います。



# ソフィーの活動通信 INベナン VOL.2



ココナッツの木



サツマイモ栽培の様子

Bonjour!!皆さんこんにちは。現地での生活もすでに半年が経ちました。同僚や近所の人たちとも関係構築ができて、毎日とても楽しいです！

## ～2025.4 サツマイモ栽培計画開始！～

ラロ市にあるラロ村落開発支所に赴任してから4ヶ月。

ラロ市が抱える課題について同僚と話し合った結果、サツマイモを育てることによって子供の栄養を改善するプロジェクトを始めることになりました！

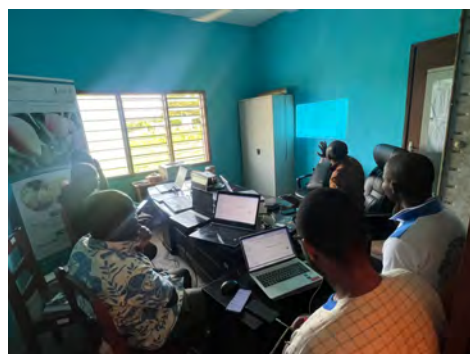
「ラロ市から170kmの距離にあるアジョウン市で、栄養価の高いサツマイモを育てているよ」と先輩隊員から教えてもらい、その蔓を購入しました。支所の敷地内にある畑のほか、近隣農家から畑を貸してもらったり、畑仕事のできる支所配属の警備員に、蔓を植える前に土を耕してもらったりと、たくさんの協力を得ました。収穫は8月を予定しています。どうかこのプロジェクトがうまく進みますように！



野菜販売の光景

## ～2025.6 職場でCHATGPT研修！？～

ある日、支所長が同僚たちを集めて「会議をするぞ！」「パソコン持参で！」と号令をかけました。パソコンを持って参加する会議は滅多になく、私も興味深く参加させてもらいました。その日のテーマはなんと！chatGPTの使い方でした。まず無料のアカウント登録から始まり、chatGPTの概要説明を受け、実際にchatGPTに質問もしました。ここで驚いたのは、アカウント登録だけで45分もかかったことです！ベナンではPCを学ぶ機会がないのか...私はいつ日本でPCスキルを得たのか...と様々な問いが芽生えた日でした。



chatGPTの講義

## 自己紹介

名前：祖父江なつみ（あだ名はソフィー）

隊次：2024年2次隊

派遣国：ベナン

職種：コミュニティ開発

京都との関わり：母が京都出身。転勤族だったため、小6～高3までの青春時代（7年間）を堀川丸太町と岡崎で過ごしました。





## 国際交流イベント「SPORTS DAY」報告

6月8日(日)、京都府南部の精華町と、国際交流のボランティア団体 せいかグローバルネットと共催で、国際交流イベント「第5回 Sports Day」を開催しました。参加者は67人(外国籍の方は13人)、ボランティアスタッフは14人でした。

当日は、子どもから大人まで、多くの参加者が集まり、年齢や国籍や言葉の壁を越え、自然と助け合いながら協力して、心からスポーツを楽しむ姿が見られました。

初めは、まず、けがをしないようにラジオ体操を、木津南中学校チャレンジ部の生徒のリードで始めました。外国人には、とても珍しいようで、びっくりしている人がいて、そのびっくりしている外国人を見て、びっくりしている日本人がいました。(アンケートより)

プログラム2番は、「よさこいソーラン」で、1回目は木津南中学校チャレンジ部による力強い踊りを披露し、2回目は参加者全員で踊りました。外国の方にも赤い法被を着て踊っていただきました。プログラム3番は、ベトナムのじゃんけん大会(ワォントッスィ)。ベトナムの方とじゃんけんを3回して、勝った人3人には、ベトナム製のグッズを賞品として提供していただきました。ベトナムのじゃんけんは、4種類あり、人差し指1本の「井戸」と、他の3種類との勝ち負けのルールが複雑でしたが、賞品をゲットしようと、みな真剣に取り組んでいました。その後、他の外国人にも自国のじゃんけんを紹介してもらいました。ところが、シリアには、じゃんけんがないそうで、これには、参加者全員が驚いていました。

プログラム4番は、ベトナムのゲーム(タットロン)を、アレンジしたゲームで、サークルの中の玉を靴を投げて、外に出すゲームです。ルールは単純ですが、大人でも、難易度は高いゲームでした。プログラム5番のお箸リレーと、プログラム6番の追っかけ玉入れは、木津南中学校チャレンジ部が中心になり、ルール説明を、日本語と英語でしたり、ゲーム中の実況放送もしていました。マシュマロを箸で挟んでのリレーです。挟むのが簡単だったのでよかったという人、豆のように挟むのがもっと難しいほうがいい人、感想はいろいろありましたが、外国人が、上手に箸を使う様子には、多くの方が感心していました。

追っかけ玉入れは、逃げる相手チームの籠を追っかけ玉を入れます。玉の多く入ったほうが負けです。玉の個数がそのまま相手側の点数に入るので、大逆転の可能性があるため、みなさん、全力疾走で、がんばっていました。

最後は、ベトナムとアメリカのダンスを教えてもらいました。それぞれの国の伝統的な音楽とダンスで、会場全体が、笑顔と歓声に包まれました。

参加者からは、一体感を味わえてよかった。楽しかったので、家でも練習したい。最後にいい思い出ができてよかった。いろいろな国の人たちとの交流が楽しかった。みんなあきらめずに一生懸命頑張っていた。素敵な休日になった。ゆるい感じが参加しやすかった。普段見られない子どもの積極的な姿に感動した。異文化交流の大切さを肌で感じた。参加者の中には、今年が2回目や3回目という方もおられ、また参加したいなどの、感想も多くいただきました。参加者の満足度は非常に高かったことがうかがえます。

また、運営サイドにおいても、準備段階から当日の運営まで、多くの青年海外協力隊経験者や地域の支援者が連携したり、JICA関西の協力により、他府県から参加された留学生がいたり、まさに「共創の場」となりました。スポーツを通じて築かれる信頼と友情の力を、改めて実感できる一日となりました。

今回のスポーツデーの成果を踏まえ、今後はさらに地域内外のネットワークを強化し、関係団体を増やし、多文化共生を体験的に学べる機会を継続して創出していきたいと考えています。(会場には、JICA海外協力隊のポスターを貼らせてもらいました。)

特に、JICA海外協力隊OB・OGが、精華町の皆さんと連携し、次世代の青少年に対して国際協力や異文化理解の意義を伝える活動へと発展させることが期待されます。今回得られた知見とつながりを、今後の活動に活かしてまいります。





## JOCA令和7年度評議員および第14回定時社員総会

長野県駒ヶ根市に集まりました！

### 年に1度の意見交換！

6月21日（土）午後、公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）の評議員及び定時社員総会出席のため、各都道府県の協力隊OB会会長が長野県駒ヶ根市に集まりました。

京都も所属する近畿ブロックは、年に一度の意見交換となる総会の場で積極的に質問しました。

協力隊事業を応援し、OBOG会も工夫して地域での国際協力活動を進めているので、その後の懇親会では、会の運営や活動について語り始めると話題が尽きませんでした。日本マラウイ協会の理事も参加しており、昨年KOCAが主催したマラウイイベントを「すごいね！話を聞きたかったんだ」と興味を持って話を聞いていただき、マラウイのつながりがまた一つできました。



## Event Schedule

世界のいのちを巡る展～いのちの物語と文化の違いをめぐる～

11月7日（金）～9日（日）／ウイングス京都

JICA海外協力隊 帰国発表会

11月8日（土）、12月7日（日）／ウイングス京都

人々の温もりに触れる旅～カリブの楽園 ドミニカ共和国～

12月12日（金）～14日（日）／No.317 ANEWAL Gallery

第24回日本語による外国人のメッセージコンテスト

12月14日（日）／精華町役場交流ホール

詳しくはKOCAホームページ、  
Facebookで御確認ください



JICA海外協力隊事業については、JICAホームページをご覧ください。

KOCAネット（メーリングリスト）は、各種行事の案内や登録者相互の情報交換・コミュニケーションを図る場として運営しています。登録ご希望の方は、[office@koca.or.jp](mailto:office@koca.or.jp)にメールを送り、お名前とメールアドレスをお伝えください。KOCAの情報は、ホームページ、Facebook、Instagramで随時配信しています。

HP



Facebook



Instagram



も見てね！

KOCAは、京都府在住のJICA国際協力ボランティア事業への参加経験者を中心とした組織です。国際協力活動で得た貴重な体験を生かして、異文化理解の促進、地域の国際化と国際理解のために様々な活動を展開しています。

編集・発行 特定非営利活動法人 京都海外協力協会（KOCA）

<郵送先> 〒600-8127 京都市下京区梅湊町83-1 ひと・まち交流会館 京都 2階

京都市市民活動総合センター メールボックス NO.27